

本展出品作品に用いられている版画技法

■ 銅版画

銅版画は、描画したい部分を彫って版を作る「凹版」の方法でつくられます。逆に木版画は、描画したい部分を残して彫る「凸版」にあたります。

エングレーヴィング

凹版である銅版画の技法として最も古いもので、15世紀半ば頃にドイツで生まれました。ビュランという菱形の断面を持つ彫刻刀による鋭い線刻が特徴です。ビュランは刃を動かす方向が一定方向に限られ、線の密度によって調子の濃淡を微細に表現するために、熟練した技術を必要とします。曲線を彫る場合には、進行方向に版を回して彫ります。



ビュラン

ドライポイント

ニードルで銅版を直接引っかくようにして描画するシンプルな技法で、1480年頃のドイツでつくられた作品が最古のものとされています。ビュランと異なり、ニードルは動かす方向に制限がなく、エングレーヴィングに比べて温かみのある自由な線を得ることができます。彫った線の両側にできる銅の「まくれ」についたインクが独特のにじみを作り、削りの加減で線の太さを変えることも可能です。



ドライポイントの描画で主に使用されるニードル

エッチング

グラウンドという防蝕剤を塗った銅版にニードルで描画し、酸で腐蝕させて版を作る方法です。酸の溶液にひたすと、描画してグラウンドがはがれ銅が露出した部分のみが腐蝕し、線状のくぼみができます。銅版に彫刻せず、グラウンドを削り取るだけでよいため、素描に近い自由な軌跡の線が得られます。腐蝕時間を調整して線の強弱を表現することができ、他の技法とも併用しやすい技法です。エッチングによる銅版画は、17世紀のヨーロッパで隆盛を極めました。



主にエッチングの描画で
使用されるニードル



グラウンド



アクアチント

銅板上に細かい点状の凹版を作り、面に濃淡を表現するときに使われる技法で、18世紀後半にフランスで確立しました。版面に松脂の粉末を散布し、熱して定着させてから酸の溶液にひたすと、松脂のついていない部分のみが腐蝕し、無数の点状の凹部ができます。段階的に腐蝕し、版の深さの差をつくることで、グラデーションの表現が可能になります。水彩画に似た仕上がりになるため、「アクア(水)チント(色合い)」と呼ばれます。エッチングなど、他の技法と併用されることが多い技法です。



松脂

カーボランダム

原版を彫らず、版に特殊な混合物を塗って起伏を作り、その凹凸部分に乗せたインクをプレスして用紙に刷る技法で、立体感が特徴です。

■ リトグラフ (石版画)

平らな版にインクを載せて刷る「平版」です。18世紀末にドイツで発明された方法で、19世紀にヨーロッパを中心に人気を博しました。水と油の反発を利用してイメージを印刷します。石版の版面に直接描いた絵を、ほぼそのまま紙に刷り取れるのが特徴です。多色リトグラフは、色の数と同じ数の石版を用いてつくられます。リトグラフの「リト」は、ギリシア語で石を意味するlithosに由来しています。



石版

■ シルクスクリーン

孔(あな)があいている版を用いて行う、孔版印刷の一種です。シルクスクリーンの歴史は120年ほどで、比較的新しい技法ですが、型紙と絹の紗(しゃ)による日本の印刷技術がヒントになったとされています。メッシュ状の版を、絵柄を残して目止めし、絵柄となる孔の部分を通じたインクが刷られます。かつて版に絹が使用されていたことから、「シルク」スクリーンと呼ばれます。現在ではさまざまな材質のメッシュが使われています。